

Title	「たり」の用法に関する一考察
Author(s)	日比, 伊奈穂
Citation	大阪大学日本語日本文化教育センター授業研究. 7 P. 17-P. 28
Issue Date	2009-03-28
Text Version	publisher
URL	https://doi.org/10.18910/5661
DOI	10.18910/5661
rights	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/>

「たり」の用法に関する一考察

日比伊奈穂

【要旨】

「たり」を用いた文には様々な意味・用法のものがある。日本語教育で扱われるのは主に、いくつかの例を挙げる「例示」の用法と、動作・状態が相互に繰り返されることを表す「繰り返し」の用法である。しかしそれ以外にも、状態が一定しないことを表す用法（「不定」）や、一例を取り上げて同類の事態を暗示する用法（「暗示」）、さらには明言を避けるための用法（「ほかし」）や、冗談を表す用法（「冗談」）がある。本稿では「たり」の基本的意味を「ある状況設定からいくつかの具体的事態を取り出すこと」と考える。この基本的意味を表しているのが「例示」の用法である。その他の用法はこの例示の用法からの派生と考えられ、「たり」の基本的意味が各用法へそれぞれ広がりを見せる。また、日本語教育で「たり」がどのように扱われているのかについても触れる。

1. はじめに

「昨日は本を読んだりテレビを見たりしました。」のような「たり」は初級で扱われる文法である。この「たり」は管見では、条件文や受身文、使役文などのように特に重要な文法項目という扱いではなく、また、「のだ」文のように習得が難しい文法項目という認識もされていないように思われる。

しかし、吉永（2007）で指摘されているように、意味は理解できていても全体としては落ち着きの悪い文しか作れないなど、誤用も見られる。また、初めにあげた例のような例示の用法や「雨が降ったりやんだりしています」のような用法（本稿では繰り返しの用法と呼ぶ）が初級で導入された後、中級や上級で「たり」が扱われることは少ないようであるが、「たり」の用法はこの二つに限られているわけではない。文法研究で明らかになっている事実も多い。

そこで本稿では、「たり」の用法を考察し、文法研究から日本語教育への橋渡しをしたいと思う。

2. 先行研究

まずはじめにこれまでに文法研究で明らかになっていることをまとめておきたい。「たり」に関する文法学的研究には森田（1989）、寺村（1991）、森山（1995、1997）などがある。

森田（1989）は「たり」の用法を「例示」と「共起」の二つに分類しているが、「AたりBたり」のA・B相互が生み出す意味として次の四つの場合を挙げている。

- a 同一主体の連続的な行為や状態
「彼は腹を立てたり悔しがったりしていた」
- b その時々で状況に差がある場合
「風呂は熱かったりぬるかったりだ」
- c ある状況の特色を多方面から描写する場合
「当地は花が咲いたり鳥が鳴いたり、なかなか自然に富んでいる」

- d・ある目的のためには各種の方法や手段を講ずる要のある場合
「辞書を引いたり参考書をみたりして調べなさい」

寺村(1991)は述語の並立的結合の一つとして「タリ形による接続」を挙げ、「たんにいくつかの動作、行為を並べる場合」を「非対称的並立」、「ある対称的な動作、出来事、状態を並べる場合」を「対称的並立」としている(pp.221-222)。次の(1)が非対称的並立、(2)が対称的並立の例として挙げられているものである。

- (1) 土曜日はテニスをしたり、小説を読んだり、ギターを弾いたりして過ごします。
(2) あしたは、雨が降ったりやんだりでしょう。

そして、それぞれの構文的特徴について、非対称的な並立は「動作・できごととして述べられることが多く、したがって、『スル』で括るのがふつうで、『～ダ』とはなりにくい」、対称的な並立は「状態の特徴づけに使われるのがふつうで、その場合、『スル』で括るとおかしくなることが多い」と述べている(p.222)。

また、意味的特徴として、名詞を並立させる「や」と同じく一部列挙の形式であることを指摘している。一部列挙というのは次の(3a)の例がすべての行動を挙げていると理解されるのに対し、「たり」を用いた(3b)では、行動の一部を挙げていると理解されることを指す(例文は寺村(1991)より)。

- (3) A:きのう、会社がひけてからどうしましたか。
a B:同僚と丸ノ内のR新聞社の近くの屋台店で飲んで、そのあと一時間ほどパチンコをして、九時ごろアパートに帰りました。
b B:屋台店で飲んだり、パチンコをしたりして、九時ごろ帰りました。

この一部列挙という特徴は森山(1991)でさらに分析が進められるが、「たり」の重要な特徴を初めて指摘したものといえよう。さらに、意味的特徴として、「具体的談話のなかで、あるセットのメンバーとして捉えられるものとしての等質性を持っていなければ、自然な並立結合は成立しない。この等質性というのは、意味的なもので、形態的な類似をこえたものである。」ことも指摘している(p.227)。この点は学習者に指導する際、留意しなければならない指摘だろう。

次に森山(1995)は、「たり」による並列を「複数の事態を並列しながらも、全体としてそれをさらに大きな一つの事態としてまとめて表すもの」(p.133)と述べている。そして、複数の事態を並列するという点に関して、他の「～し」や「とか」、テ形などによる並列と異なり、「たり」による並列は複数の場面を並べるだけの関係であるため、時空が異なる事態や複数動作主による事態の並列が可能であることも指摘している。(例文(4)(5)は森山(1997)、(6)(7)は森山(1995)より)。

- (4) *彼の料理は(おいしいし/おいしくて)まずい。
(5) 彼の料理はおいしかったりまずかったりした。

- (6) 大学へ通っているといっても、彼は授業に來たり來なかつたりでした。
(7) 囚人たちは午前0時にいっせいに声を上げたり、鉄格子を揺すったりした。

さらに「たり」のもう一つの特徴として、寺村(1991)も指摘した「一部列挙」を挙げ、「単に要素の一部を列挙するというよりも、複数場面があって、その一つの場面が一部の列挙として取り上げられるというもの」と述べている(1995:137)。「たり」のこうした特徴から、一つの事態しか取り上げられていない次のような文の分析も行っている。(例文は森山(1995)より)。

- (8) 君、小さい子をからかたりしてはいけないよ。
(9) うどんにマヨネーズをかけたりして。

(8)の例はその他の行動も問題にしているのではなく、小さい子をからかうことだけを問題にしているのであるが、一例を取り上げることによって、その類的な意味を問題とすることになるという指摘である。そして(9)の例は冗談の用法として森山(1995)が初めて指摘したものであるが、これは極端な事態を例示として取り上げることによって冗談の意味が生ずるという指摘である。

以上のように文法研究では、単に例示や繰り返しの用法にとどまらず、その他の「たり」の用法への分析が進んでいる。このような文法研究はもちろん日本語教育の場にも生かされるべきであろう。そこで、次に、上記その他の先行研究に筆者独自の分析を加え、「たり」の用法をまとめてみたい。

3. 「たり」表現のいろいろ

本稿ではまず、「たり」の用法を次の六つに分類する。

【例示】

- (10) 日曜日は、掃除をしたり、買い物に行ったりして1日が過ぎました。

【不定】

- (11) 大学にはバスで來たり、モノレールで來たりする。

【繰り返し】

- (12) 今日は朝から雨が降ったりやんだりしています。

【暗示】

- (13) しかし、ちょっと成績がいい程度のことでは舞い上がったりしない。(ちゃれんじ?)

【ぼかし】

- (14) 好きなお笑い芸人さんとかいちゃったりしますか。

【冗談】

- (15) 実は凶星だったりして。

「例示」「繰り返し」の用法は森田や寺村がすでに指摘している用法である。森田は「不定」の用法にも触れている(2節参照)。「不定」「暗示」「冗談」については森山に分析がある(例

文(5)～(9)参照)。「ほかし」については後述するが、「暗示」の用法から発展したものと考えられる。

では、そもそも「たり」の基本的な意味というのは何なのだろうか。

「たり」の基本的意味は、「ある状況設定からいくつかの具体的事態を取り出すこと」であると考えられる。大きな状況設定からそこに含まれるいくつかのものを取り出すため、「取り出されたものだけでなくほかにもある」ということが暗示されることになる。本稿で「例示」と呼ぶ用法はまさにそのことを表している。そして、その他の用法はこの基本的用法から派生したものと考えることができる。

以下、順に具体的に見ていく。

3-1. 例示

先にも述べたように、「たり」の基本的意味が表れているのがこの「例示」の用法である。

(16) 日曜日は、掃除をしたり、買い物に行ったりして1日が過ぎました。 (= (10))

(17) 寒くなると、わたしもおしゃれがしたくなる。夏の終わりにはそわそわしだし、オフの日に街をぶらぶらして眼の準備運動をしたり、行きつけの店に行って、「どんなの入ってる？」とたずねたりする。(てつがくを着て、まちを歩こう)

(16) の場合、「日曜日の出来事」という状況設定の中から、「掃除をする」「買い物に行く」という具体的出来事を取り上げているが、「取り出されたものだけでなくほかにもある」ということが暗示されるため、これらは日曜日の出来事の例だと解釈されることになる。(17) もおしゃれがしたくなってすることの例として「街をぶらぶらして眼の準備運動をする」「行きつけの店に行って、『どんなの入ってる?』とたずねる」ことなどをするとするいう解釈になる。

この用法は上記2例のように「～たり、～たりする」と、例が二つ以上挙げるのが一般的であるが、「～たりする」のように例が一つだけでも可能である。

(18) 広大になった展示スペースには、人々の生活を黙々と支えたモデル、不幸にも世になかったデザイン、今日からすると何とも大掛かりで苦心を感じさせる実験装置なども展示されている。ショーケースに目を移せば、「こんなものも？」といったものまで誇らしげにディスプレイされていたりする。(エンズー新聞)

(19) 昔はすぐカビが生えたりするので、落語を聴く人にも腐敗物の実感があった。(落語)

また、「～たり、～たり、～」のように、例が二つ以上挙がっているが最後の「たり」に「する」がつかないものもある。

(20) 協会の反論に、市民会議のテーマから「コンビニ深夜営業見直し」の文言を外したり、協会からの委員数を増やすことも検討したりと譲歩を示したが、理解されなかった。(朝日新聞2008/8/23朝刊)

「たりする」とならない文にはさまざまな特徴が見られる。まず一つは、「～たり」といくつか例を挙げた後、それをまとめる内容が続く場合である。上記(20)がそれに当たり、「市民会議のテーマから『コンビニ深夜営業見直し』の文言を外す」「協会からの委員数を増やすことを検討する」ことを例として挙げ、それらをまとめた内容である「譲歩を示す」で結んでいる。別の言い方をすれば、「譲歩を示す」ことの例として、「市民会議のテーマから『コンビニ深夜営業見直し』の文言を外す」「協会からの委員数を増やすことを検討する」ことを例として挙げているとも言えるだろう。

そして、二つ目として「～たり、～も～」と、二つ目以降の例が「たり」ではなく並立を表す「も」を使って表現されている場合がある。

- (21) 高レベルの競演の一方、衣装替えに手間取ったり道具に凝りすぎたり、意味不明のパフォーマンスも。
(朝日新聞2008/8/21朝刊)

(21) の例で言えば、「意味不明のパフォーマンスをしたり(している)」となるところを「意味不明のパフォーマンスも」とすることで、「たり」と同じように他を暗示した表現となっている。

さらに「たりする」とならない文の例として、二つ目以降の例が長い場合がある。初めの「～たり」から次に「たり」を入れるべきところまでが長いために、「たり」が脱落してしまったものと思われる。

- (22) やる気をできるだけ保って、逆に外国にいっそう興味をもったり、すごく強い動機をもつことによって、炎を大きくしたら効率よく勉強できるはずです。
(ピーター流外国語習得術)

- (23) 通常は乾燥が続き雨が欲しい場合に人工的に降らせたり、あるいは南方地方ではよく雹が降り農作物に被害を与えるが、大きな雹になる前に人工的に雨を降らせて被害を防ぐために使われている方法だ。
(環境問題のデパート・中国の素顔)

ただし、次の例のように、二つの例が短い言葉で近接している場合でも「たり」が脱落しているものが見られる。

- (24) 才能のように思われるものが、じつは習慣だったり、性格的なことだからです。
(ピーター流外国語習得術)

- (25) 鍋が空になったら、焦げたりこびり付いた米をふやかすため、水を張ってしばらく置いておく。
(一斗ちゃんのエコ嘸)

これらの例については文法性の判断が分かれるところであろうが、筆者には不自然さは感じられない。しかし、次のような例はやはり不自然であり、どのような場合に「たり」が脱落しても不自然でなくなるのかは、さらに検討が必要である。

(26) ?生だったり煮た魚はあまり好きではありません。

3-2. 不定

この用法は状態が一定していないことを述べるものである。

(27) 大学にはバスで来たり、モノレールで来たりする。 (= (11))

(28) 私の家では朝食を作るのは母だったり、父だったり、私だったりする。

(29) あの店は日によって混んでいたりすいていたりする。

この用法の特徴は取り上げられる動作や状態が一つであるという点である。(27) の例では「大学へ来る」ということ、(28) では「朝食を作る」ということ、(29) では店の混み具合になる。「いろいろある」ことを表しているという点で大きくは例示の用法といえるが、前節で見た典型的な例示の用法と異なるのは、「例示」が一つの時空間の中でさまざまな事態が生じることを示すのに対し、この用法はある一つの事態が時空間によって様々に異なることを示す点である。

「例示」の用法である次の例と比較して考えてみよう。

(30) 日曜日は、掃除をしたり、買い物に行ったりして1日が過ぎました。 (= (10))

(30) は「ある日曜日」という設定の中で、その日の行動の例として「掃除をする」「買い物をする」が挙げられている。それに対し、(27) の「不定」の用法の場合、設定されているのは「大学へ来る」という事態である。それがあるときは来る手段がバスになり、ある時はモノレールとなる、というように、「大学へ来る」ということに関するここでは手段が場合によって変化することを表している。同様に、(28) では「朝食を作る」ということに関する動作主の違い、(29) では店の混み具合に関して多い、少ないの違いを表している。

3-3. 繰り返し

本稿で「繰り返し」と呼ぶ用法は、次のようなものである。

(31) 今日は朝から雨が降ったりやんだりしています。 (= (12))

(32) 仕事でロンドンと大阪を行ったり来たりしています。

寺村(1991)に「ある対称的な動作、出来事、状態を並べる場合」(p.221)とあるように、対称的な動作等が対になって並べられており、その対の動作・状態が繰り返されることを表す。では、なぜ対の動作や状態が並べられると繰り返しの意味が出るのか。

3節のはじめに「たり」の基本的意味が「ある状況設定からいくつかの具体的事態を取り出すこと」だと述べたが、この繰り返しの用法では「いくつかの具体的事態」というのが対称的な動作・状態となる。(31)の例で具体的に説明すると、「今日の天気」という設定された状況の中から「雨が降ること」と「雨がやむこと」が取り出されている。この「降る」と「やむ」が対称的な出来事であることから、その他の出来事というのが暗示されにくい。しかし、「たり」

はいくつかの状況を取り出すことを表すものであるため、1回の出来事とは捉えられない。そこで、「雨が降ることもあり、雨がやむこともあり、また雨が降ることもあり、…」と繰り返しの意味で解釈されることになるのである。

3-4. 暗示

この用法は「～たりする」の形で一つの事態しか取り上げられていないものである。この場合、ある大きな状況の中の具体的事態を例として挙げることには重きが置かれておらず、「これとは限らないがこのようなこと」といった意味を表している。2節でも触れたが、森山(1995)が『『たり』が持つ列挙的な意味をもとにしつつ、同類的なグループから一つの例を出すという例示的な表現方法をとることで、その類的意味を取り上げることになっている」と分析しているものである。次の例で考えたい。

(33) さらに言うなら、N氏は枕の使い方も変だ。仰向けで寝ているとき(熟睡中)に、顔の上に枕をのせていたりする。(ぼれぼれサファリ)

(34) しかし、ちょっと成績がいい程度のことで舞い上がったたりしない。(= (13))

(33)の「顔の上に枕をのせていたりする」は、寝ている時のN氏の様子の一例を取り上げ、他にもいろいろな様子があることを表しているとは考えにくい。「顔の上に枕をのせている」ことは確かにN氏の就寝中の様子、特に枕の使い方の一例には違いないが、ここの表現意図は他に様々な様子があることを示すよりも、「顔の上に枕をのせているような(変な)こと」と「変だ」ということを具体的に説明しつつ、他のよく似た動作・状態を暗示することにある。(34)では「舞い上がる」ことやそれに類似した動作をしない、つまり喜びに浮かれたことはしないと述べている。

3-5. ぼかし

「暗示」の用法から派生したと考えられる用法がある。「暗示」が同類のものの存在をそれとなく示すことから、特に同類のものを暗示するのではないが明言を避けるために「たり」を用いているものである。この用法は会話でよく見られ、話し言葉を用いたエッセーやブログなどでも使われる。

(35) 好きなお笑い芸人さんとかいちゃったりしますか。(= (14))

(35)はあるラジオ番組でリスナーからDJへの質問であったのだが、ここでは聞きたいことは「好きなお笑い芸人がいるかどうか」ということであり、それ以外の同類の事態を暗示しているとは考えられない。ここで「たり」を用いているのは、おそらく質問内容に自信がないからだろう。「もし好きなお笑い芸人がいたら誰なのか知りたいが、お笑い芸人には興味がなさそうなので、肯定的な返事が返ってこないかもしれない」とでもいった気持ちから明言を避ける「たり」が用いられたということだろう。

(36) トイレで新聞を読んだりする今日この頃。

(36) の例も「トイレで新聞を読む」ことに類することが想定できず、類似の事態が暗示されているとは考えにくい。やはりはっきりと述べることを避けていると言えよう。ただ、この例は次に見る「冗談」の用法との類似性も見られる。「冗談」の用法が「たりして」の形で冗談の意味を表すことから派生し、「たりする」の形で「冗談のようだけれど事実なのだ」といわば茶化して述べているとも考えられる。この点についてはさらに考察が必要である。

3-6. 冗談

(37) 実は図星だったりして。 (= (15))

この用法は森山 (1995、1997) で「冗談用法」と呼ばれているものである。森山 (1997) はこの用法について、「ここでの『冗談』とは、極端な異常事態を例示・想定することとして位置付けられよう。事態を部分的な例示として取り上げるところに、『冗談』としての意味、つまり、あくまで例示であって、そのことだけを大まじめで (?) 考えているのではないという意味が生ずる余地ができるのである。」(p.61) と述べている。

やはりこれも例示からの派生的な用法といえる。ある設定された状況の中で、実際に起こった事態ではないが、起こる可能性のある事態の一つとして取り上げ、他の可能性も暗示させることになる。そしてその取り上げる事態が実際に生じる可能性が低いものであるために、冗談の意味が生じるのである。

4. 「たり」の用法の全体像

これまで見てきた「たり」の六つの用法をここでまとめておきたい。

用法名	形 式	意 味 ・ 特 徴
例 示	<ul style="list-style-type: none"> ・～たり～たりする ・～たりする ・～たり～たり、… 	<ul style="list-style-type: none"> ・「たり」の基本的用法 ・ある設定された状況からいくつかの具体的事態を例として取り上げる。 ・他にもあることが暗示される。
不 定	<ul style="list-style-type: none"> ・～たり～たりする 	<ul style="list-style-type: none"> ・大きくは例示の一用法 ・ある一つの事態が時空間によって様々に異なることを表す。
繰り返し	<ul style="list-style-type: none"> ・～たり～たりする 	<ul style="list-style-type: none"> ・対称的な動作が繰り返されることを表す。
暗 示	<ul style="list-style-type: none"> ・～たりする 	<ul style="list-style-type: none"> ・同類の事態を暗示する。
ぼ かし	<ul style="list-style-type: none"> ・～たりする 	<ul style="list-style-type: none"> ・明言を避ける。
冗 談	<ul style="list-style-type: none"> ・～たりして 	<ul style="list-style-type: none"> ・極端な事態を取り上げて冗談の意を表す。

まず、「たり」の基本的な意味は、「ある状況設定からいくつかの具体的事態を取り出すこと」である。この基本的な意味を表している用法が「例示」の用法である。「例示」には「～たり、

～たりする」の形を取るものが最も多く、これが基本の形だろう。そのほか、最後の「たり」が「～たりする」と「する」で結ばれないものもあるが、かわりに総括する内容や並立を表す助詞の「も」が使われている。

「例示」の用法からの派生と考えられるのは「不定」「繰り返し」「暗示」「冗談」の用法である。まず、「不定」の用法は「いろいろある」ことをあらわす点で「例示」に近接している。「繰り返し」は「ある状況設定からいくつかの具体的事態を取り出す」のであるが、取り出される事態が対称的な動作や状態であるために、「いろいろある」のではなく「繰り返される」という意味になる。そして、「暗示」の用法は「たり」が具体的事態を取り出し、他にもいろいろあることを表すことから、一つの事態を取り上げて他の同類の事態の存在を暗示させるものである。この「暗示」の用法からの派生と考えられるのが「ほかし」である。これは他を暗示するというよりも、それを利用して明言を避けるために用いられるものである。最後に「冗談」の用法であるが、これは「たり」が取り上げられた事態だけではなくほかにもあることを暗示することから、極端な事態を一例として取り出して冗談の意を生じさせる。

このように様々な「たり」の用法があるが、では、日本語教育の中ではこれらの「たり」はどのように扱われているのだろうか。次にその点について見ていきたい。

5. 日本語教育での「たり」

初めにも少し述べたように、日本語教育では「たり」は初級の文型の一つとして扱われている。『日本語能力試験出題基準【改訂版】』（2002）では、3級の文法項目として挙がっており、調査対象となった8種類すべての教科書で扱われている⁽¹⁾。CJLCで使用されている『初級日本語』『基本文型』『初中級基本文型<改訂版>』、及び日本語学校などで主に用いられる『みんなの日本語初級』では次のような例で扱われている。

『初級日本語』12課

わたしは 日よう日に さんぽを したり、本を よんだり します。

学生たちは いま ギターを ひいたり、うたったり して います。

この にんぎょうは 目や 口を 開けたり 閉じたり します。

あの 赤ちゃんは ないたり わらったり して います。

『基本文型』だい7か、『初中級基本文型<改訂版>』第8課⁽²⁾

わたしは にちようび たいてい りょうに いて、

てがみを かいたり、 せんたくを したり します。
ほんを よんだり、 テレビを みます

このまえの にちようび なにを しましたか。

— きょうとへ 行って、かいものを したり、えいがを みます して、

10じごろ いえへ かえりました。

『みんなの日本語初級 I』第19課

休みの 日は テニスを したり、散歩に 行ったり します。

冬休みは 何を しましたか。

…京都の お寺や 神社を 見たり、友達と パーティーを したり しました。

日本で 何を したいですか。

…旅行を したり、お茶を 習ったり したいです。

すべての教科書で扱われているのは「例示」の用法である。『初級日本語』のみ「繰り返し」の用法も扱っている。

では、その他の用法はどの段階で扱われるのか。

CJLCのUプログラム（学部留学生プログラム）の授業で使用されている『中級日本語』、および2008年度にMプログラム（短期留学生プログラムのための日本語コース）の必修文法の授業で使用されている『留学生のための日本語文法中級1』の中では扱われていなかった。しかし、Uプログラムの中級以降の授業で使用される『日本語中級学習者のための速読練習用読解教材』『日本語上級学習者のための速読練習用読解教材』には「例示」の中でも「～たりする」と「たり」が一つだけのもの、「～たり～たり、<まとめ>」のように最後のたりに「する」がつかず、総括する内容がくるもの、そして、「暗示」の用法が使われている文が見られる。この二つのテキストは一部改変されてはいるが、本や新聞などの文章が使われており、実際の文ではこのような用法が用いられることが少なくないということだろう。

市販のテキスト教材では、『どんなときどう使う日本語表現文型200』に、例示や繰り返しの用法とともに「不定」の用法が挙げられている。また、『教師と学習者のための日本語文型辞典』には、例示、繰り返しの用法のほかに、「… たり したら/しては」の形で「暗示」の用法、「… たりして」として「冗談」の用法が挙げられている。

確かに「たり」の基本的な用法は「～たり、～たりする」という形の「例示」の用法であり、この用法が習得できれば学習者には日本語を運用する上で特に困難は生じないかもしれない。その他の用法はこの基本用法からの類推によって大体のところは理解されるだろう。しかし、やはり「たり」は例示を表すだけの表現ではないのであるから、どこかでその他の用法も扱われるべきではないか。特にMプログラムやJプログラム（日本語・日本文化研修留学生プログラム）の上級レベルにある学習者には、主にくだけた話し言葉で用いられる「冗談」や「ぼかし」の用法のようないわば周辺的な表現も使いこなせることが求められるのではないだろうか。

6. おわりに

本稿では「たり」のさまざまな用法について考察し、日本語教育では扱われない用法があることを指摘した。しかしながら、日本語教育の現場で活用できるような形で提示することまではできなかった。実際の用例の中にはどの用法に属するものなのか判断しがたいものも多く存在する。まだ「たり」の用法が十分に明らかになったとは言えない。また、その他の例示表現との比較研究も必要であろう。実際に指導する中では他の類似表現との異同を明確にしなければならぬ。残された課題は多い。今後もさらに研究を進めていきたい。

注

(1) 調査が行われたテキストは次のとおりである。

①あたらしい日本語（学研）

②BEGINNING JAPANESE PART I, II (E.JORDEN)

- ③MODERN JAPANESE FOR UNIVERSITY STUDENTS PART I (ICU)
- ④AN INTRODUCTION TO MODERN JAPANESE (THE JAPAN TIMES)
- ⑤日本語初歩 (国際交流基金)
- ⑥日本語 I (東京外国語大学附属日本語学校)
- ⑦JAPANESE BY THE TOTAL METHOD VOLUMES I, II, III (N.BRANNEN)
- ⑧日本語教科書初級 (早稲田大学語学教育研究所)

(2)『初中級基本文型<改訂版>』では『基本文型』とほぼ同じ例文が漢字表記されている。

私は日曜日たいてい寮で、

手紙を書いたり、せんとく(を)したり | します。

本を読んだり、テレビを見たり |

この前の日曜日何をしましたか。

一京都へ行って、買い物をしたり、映画を見たりして、10時頃家に帰りました。

<用例出典>

ピーター・フランクル『ピーター流外国語習得術』岩波ジュニア新書1999

東野圭吾『ちゃれんじ?』角川文庫2007

鷺田清一『てつがくを着て、まちを歩こう ファッション考現学』ちくま学芸文庫2006

朝日新聞「コスプレ五輪に13カ国 呉智英さんと鑑賞」2008年8月21日付朝刊

朝日新聞「ライフスタイル論が火種 深夜営業規制にコンビニ、協議不参加」2008年8月23日付朝刊

asahi.com: 「一斗ちゃんのエコ唄 昭和15年生まれ、もったいない母、68歳」(山内史子)

<http://eco.nikkei.co.jp/column/ecobanashi/article.aspx?id=MMECcf000021052008>

asahi.com: 「ぼればれサファリ シンクロナイズドスリーピング」(春口裕子)

<http://www.asahi.com/travel/porepore/TKY200809040083.html>

asahi.com: 「落語ってこんなにおもしろい 夏の話(3)」(京須 偕充)

<http://www.asahi.com/showbiz/column/rakugo/kyosu/TKY200807190067.html>

NIKKEI NET: C-Style with NAVI「エンター新聞Selection #010 メルセデスベンツ博物館の珍車・奇品」

<http://www.nikkei.co.jp/style/car/signboard/enthu010.html>

NIKKEI NET: 日経Ecolomy「環境問題のデパート・中国の素顔 オリンピックは成功したか? — 中国の素顔を見せた北京五輪」(小柳秀明)

<http://eco.nikkei.co.jp/column/eco-china/article.aspx?id=MMECcj000022082008>

<参照教科書・参考書>

熱田万美・清水昭子・竹村ゆり (1997)『初中級基本文型<改訂版>』大阪外国語大学留学生日本語教育センター

庵功雄・高梨信乃・中西久美子・山田敏弘 (2000)『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリー
エーネットワーク

庵功雄・高梨信乃・中西久美子・山田敏弘 (2001)『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリー
エーネットワーク

石原嘉人 (1998)『日本語中級学習者のための速読練習用読解教材』大阪外国語大学留学生日本語教育センター

石原嘉人 (2001)『日本語上級学習者のための速読練習用読解教材<改訂版>』大阪外国語大学留学生日本語教

育センター

鎌田修・梶本総子・富山佳子・宮谷敦美・山本真知子（1998）『生きた素材で学ぶ中級から上級への日本語』

The Japan Times

グループ・ジャマシイ（1998）『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版

スリーエーネットワーク（1998）『みんなの日本語初級Ⅰ・Ⅱ（本冊）』スリーエーネットワーク

東京外国語大学留学生日本語教育センター（1994）『初級日本語』凡人社

東京外国語大学留学生日本語教育センター（1994）『中級日本語』凡人社

友松悦子・宮本淳・和栗雅子（1996）『どんな時どう使う日本語表現文型500』アルク

友松悦子・宮本淳・和栗雅子（2000）『どんなときどう使う日本語表現文型200』アルク

平尾得子・山澤園子（2007）『留学生のための日本語文法中級1』大阪外国語大学日本語日本文化教育センター

三浦昭・マグロイン花岡直美（2008）『AN INTEGRATED APPROACH TO INTERMEDIATE JAPANESE

中級の日本語【改訂版】』The Japan Times

大阪外国語大学留学生日本語教育センター『基本文型』（学内使用版）

<参考文献>

国際交流基金・日本国際教育協会（2002）『日本語能力試験出題基準【改訂版】』凡人社

寺村秀夫（1991）『日本語のシンタクスと意味Ⅲ』くろしお出版

森田良行（1989）『基礎日本語辞典』角川書店

森田良行（2007）『助詞・助動詞の辞典』東京堂出版

森山卓郎（1995）「並列述語構文考—「たり」「とか」「か」「なり」の意味・用法をめぐって—」仁田義雄編『複文の研究（上）』くろしお出版

森山卓郎（1997）『「うどんにマヨネーズかけたりして」—並立の意味』『言語』26-2

吉永尚（2007）「接続助詞『たり』の用法と習得について」『そのだ語文』6

ルチラ パリハワダナ（2002）「（～たり、）～たりする文の意味・用法について」『金沢大学留学生センター紀要』5号

（ひび いなほ 本センター非常勤講師）